



営農支援課 TAC
堀井 崇史

次作に向け、環境の変化や 病害虫の発生に対応しましょう!

気候変動が進む現代、農業はその最前線に立たされています。特に最近の高温は作物に大きなダメージをもたらしています。

また、カメムシ等の大量発生により、農作物に多大なる影響が発生しています。京都府では2024年5月2日(木)府内全域に果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ)の『**病害虫発生予察注意報**』を発令しました。その背景にはカメムシが越冬し、去年も数が多かった上に、暖冬の影響で生き残った数が多いのではないかと推測できます。特に管内の水稻栽培では高温による品質低下とカメムシによる被害痕が多く、減収した生産者もいらっしゃいます。

従来通りの栽培方法では昨年と同じ状況になりかねませんので、今からできる対策を講じましょう。

水管理は、生育過程ごとの以下の4つのポイント

- 1 **分げつ期**には、無効分げつの発生を抑えるため、ほ場内を**深水**になるよう管理します。こうすることで、**白未熟粒**を引き起こしやすい**籾数過多**になることを防ぎます。
- 2 **中干し**は、重粘土壤では強めに行い、砂質土壤では軽く済ませるなど、**土壌**の質によって**調整**します。それによって**葉色**を濃く保ち、**背白粒**や**基白粒**の発生を防ぎます。
- 3 **出穂期**からの**20日間**には、昼間は自然落水させて夕方以降入水する『**間断かん水**』を繰り返す、ほ場内の**地温・水温**を低く**保たせ**ます。
- 4 **登熟期**から**収穫間際**までできるだけ通水を続け、**稲**を冷やします。特に**登熟初期**は、**飽水管理**にして高温になるのを防ぎます。



飽水管理

飽水管理とは水尻を止水し、自然落水で水がなくなり溝や足跡に水が溜まっている状態になったら灌水する管理。

登熟歩合向上効果

高品質米の生産に!

本田のカメムシ類、ウンカ類、
いもち病を同時に防除、
籾の**登熟歩合**も向上します

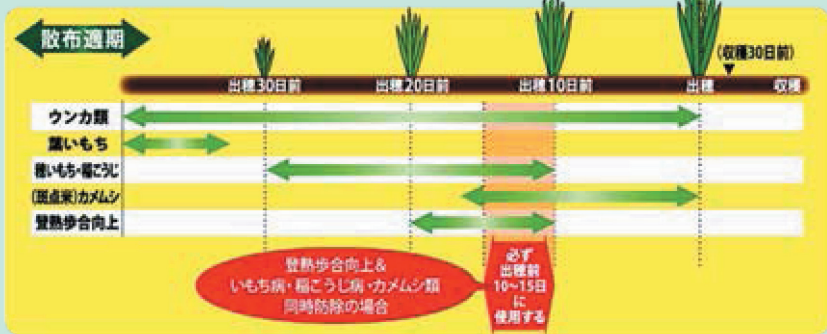


5,093円/税込

殺虫殺菌植物成長調整剤

フジクララップ®粒剤

おすすめ



●適用病害虫および使用方法

作物名	病害虫草名	使用目的	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	成分別総使用回数	成分別総使用回数
稲	いもち病	—	3～4kg/10a	葉いもちに対しては初発7～10日前 穂いもちに対しては出穂10～30日前 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以内	2回以内(は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内)	3回以内(移植前は1回以内、本田では2回以内)
	ウンカ類							
	ニカメイチュウ							
	カメムシ類							
	稲こり病	4kg/10a	出穂10～30日前まで					
	—		登熟歩合向上	出穂10～20日前但し、収穫30日前まで				